

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

平成24年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区西船見町5932番地561		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 高橋 道映	電話番号	025-222-7612
		ホームページ	http://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化政策課	電子メール	
基本財産 (基本金)	198,446 千円	設立年月日	昭和47年 5月 8日
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,846 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名			事業概要				
會津八一記念館管理運営事業			會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)する。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	33,449	31,879	32,132	34,678
活動指標・成果目標			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
年間入館者数		計画	人			7,900	7,900
		実績		6,987	7,064	7,560	
年間入館料		計画	千円				2,800
		実績		2,361	2,507	2,671	

事業名			事業概要				
特別展自主事業			八一と同時代に活躍し、書家、陶芸家、美食家として知られた北大路魯山人との二人展を開催した。二人は交流がなかったものの、「書」では互いに対抗心をむき出しながら独特の傑作を生み出した。展覧会では、八一と魯山人の“対決”をコンセプトに、京都何必館所蔵の八一と魯山人の書画及び陶磁器作品の名品を中心に展示した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	3,323	3,134	5,279	5,000
活動指標・成果目標			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
入館者数		計画	人			3,000	3,000
		実績		2,198	2,216	3,961	

事業名			事業概要				
文芸講演会事業			會津八一の学芸の世界について、県内外の研究者、芸術家、高僧らにより多角的に講演会を開催。23年度も神林恒道館長の講演会を軸にしながら、泉田宗健師(大徳寺派松源院住職)、辻義一氏(懐石辻留主人)、出川哲朗氏(大阪市立東洋陶磁美術館館長)、喜多上氏(文芸評論家)らの講演会を開催し、八一の普及に貢献した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	388	964	580	530
活動指標・成果目標			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
開催数		計画	契約			10	10
		実績		6	21	11	
聴講者数		計画	契約			1,520	1,500
		実績		918	4,044	1,438	

事業名			事業概要				
販売事業			會津八一の作品の複製、歌集、研究書のほかレターセット、絵はがきなどの関連グッズの販売を通じて記念館の思い出とし、リピーターを拡大させる一方、財団の自主財源を確保している。23年度は中宮寺姉妹歌碑拓本、共同制作の茶碗、風呂敷など、前年度の「奈良の古寺と仏像展」や歌碑建立で強化された奈良・中宮寺関連のグッズを製作、販売し好評を得た。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予算)
収益事業	自主事業	支出額	千円	1,848	5,115	3,409	2,800
活動指標・成果目標			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
年間販売額		計画	円	2,200	4,000	3,200	4,000
		実績		2,243	6,961	4,968	

事業名			事業概要				
普及活動事業			會津八一の知名度の復興のため、毎年「會津八一の歌を映す」写真コンテストを開催し、歌と映像とを融合する新しい芸術分野を開拓中。23年度は自由部門を新設、応募点数が急増した。また館長、学芸員の出前講演会・講座への要請は着実に増加している。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	3,152	6,320	2,321	2,500
活動指標・成果目標			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数	計画	点				90	100
	実績		79	63	115		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数	計画	回					5
	実績		5	13	9		

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
役員数	9	9	10	10
常勤	0	0	1	1
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員			1	1
他団体からの派遣				
非常勤	9	9	9	9
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	6	6	6	6
その他				
職員数	4	5	5	5
常勤	2	3	3	3
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	3	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	2
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	2
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況(市派遣職員を除く。)

(単位：人)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員の状況	管理職	0	0	2	2
	一般職	2	3	3	3
	合計	2	3	5	5
年齢構成	20代以下	1	0	0	0
	30代	1	2	2	2
	40代	0	0	0	0
	50代	0	1	1	1
	60代以上	0	0	2	2
	合計	2	3	5	5

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度予算
報酬・給与等	15,018	17,113	17,907	19,560
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	0	0	0
常勤				
内 市職員分				
非常勤				
内 市職員分				
職員	15,018	17,113	17,907	19,560
常勤	7,986	11,964	11,708	12,311
内 市職員分				
非常勤	7,032	5,149	6,199	7,249
内 市職員分				
平均年収（市職員を除く。）				
常勤役員				
常勤職員	3,993	3,988	3,903	
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況（市派遣職員を除く。）

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
	市の給与体系を準用	無	
	その他〔 〕	その他〔 〕	

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
一般正味財産増減の部	経常収益	46,521	56,282	44,805
	基本財産運用益	3,347	3,346	3,334
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	39,039	48,745	38,408
	自主事業収益	5,590	16,866	7,806
	受託事業収益	33,449	31,879	30,602
	受取補助金等・負担金	300		
	その他経常収益	3,835	4,191	3,063
	経常費用	45,103	53,974	47,569
	事業費	42,098	48,283	42,862
	公益目的事業費	42,098	48,283	32,942
	収益目的事業費			5,610
	(自主事業費)	8,649	15,503	
	(受託事業費)	33,449	32,780	
	法人会計			4,310
	管理費	3,005	5,691	4,707
	評価損益等調整前当期経常増減額	1,418	2,308	2,764
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	1,418	2,308	2,764	
経常外収益	29			
経常外費用	0		70	
当期経常外増減額	29	0	70	
当期一般正味財産増減額	1,447	2,308	2,834	
一般正味財産期首残高	31,243	32,690	34,997	
一般正味財産期末残高	32,690	34,998	32,163	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金	0	0	
	その他	3,348	3,346	3,352
	基本財産評価損益	18	18	
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	3,348	3,346	3,334
	当期指定正味財産増減額	18	18	18
	指定正味財産期首残高	198,410	198,428	198,446
指定正味財産期末残高	198,428	198,446	198,464	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
	基金期末残高	0	0	0
正味財産期末残高		231,118	233,444	230,627

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	16,709	19,551	20,609
役員分			
職員分	16,709	19,551	20,609

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
資産の部	資産の部合計	236,813	238,050	236,150
	流動資産	15,226	15,802	13,552
	現金預金	9,485	8,744	6,169
	未収金		2	27
	有価証券			
	その他流動資産	5,741	7,056	7,356
	固定資産	221,587	222,248	222,598
	基本財産	198,428	198,446	198,464
	特定資産	21,648	22,047	20,915
	その他固定資産	1,511	1,755	3,219
	有形固定資産	1,050	1,362	2,836
	無形固定資産	431	363	353
	その他投資等	30	30	30
負債の部	負債の部合計	5,695	4,606	5,523
	流動負債	2,647	1,160	1,559
	短期借入金			
	その他流動負債	2,647	1,160	1,559
	固定負債	3,048	3,446	3,964
	長期借入金			
その他固定負債	3,048	3,446	3,964	
正味財産の部	正味財産の部合計	231,118	233,444	230,628
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	198,428	198,447	198,465
	うち補助金			
	(基本財産充当額)	198,428	198,446	198,465
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	32,690	34,997	32,163
	代替基金			
その他一般正味財産	32,690	34,997	32,163	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)	21,648	22,046	20,915	
負債の部及び正味財産の部合計	236,813	238,050	236,151	

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
市財政支出等の合計	33,530	31,959	32,212
補助金			0
事業費補助金			
運営費補助金			
設備投資に係る補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	33,450	31,879	32,132
内 随意契約額	33,450	31,879	32,132
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免, 建物の無償貸与等)			

随意契約額とは、市との一者随意契約による委託料及び非公募による指定管理者料をいう。

(市財政支出等がある場合) 目的, 内容, 必要性, 増減理由等

--

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
純資産	231,118	233,444	230,628
公益目的保有財産			
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産			
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金			
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金			
拋出者の意思に従って, 使用・保有されている財産			
遊休財産額	231,118	233,444	230,628

5. 経営改善状況（評価指標）

評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成21年度	平成22年度	平成23年度
経常損益		1,418 千円	2,308 千円	2,764 千円
自己資本比率	純資産	97.6 %	98.1 %	97.7 %
	純資産 + 負債			
流動比率	流動資産	575.2 %	1362.2 %	869.3 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	94.6 %	93.8 %	94.9 %
	固定負債 + 純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 - 資本金（基本金）	32,672 千円	34,998 千円	32,182 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	-	-	76.2 %
	公益・収益目的事業費 + 管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	-	-	0.14
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	有	運用方針を明文化し、それに従って運用している。 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 資金運用に関する情報収集に努めている。 元本割れのリスクはない。	
		無		

（2）団体の自立性

指標		平成21年度	平成22年度	平成23年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	72.0 %	56.8 %	71.9 %
	経常収益 + 経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		平成21年度	平成22年度	平成23年度
職員 1 人当たり 売上高	事業収益	9,760 千円	9,749 千円	7,682 千円
	職員数			
職員 1 人当たり 経常利益	事業活動収支差額	355 千円	462 千円	553 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	6.7 %	10.5 %	9.9 %
	経常費用			
職員 1 人当たり 管理費	管理費	751 千円	1,138 千円	941 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	35.9 %	34.7 %	46.0 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

中長期計画の策定状況	
有	計画名称〔 會津八一記念館中期運営計画・原案策定中 〕 計画期間 平成 25～29
概要・数値目標	
年間入館者1万人以上を確保 年間講演会・講座10回の確保及び聴講者2000人以上を維持 新潟市・奈良県歴史文化交流協定の実質化 = 奈良の古寺との定期交流会を毎年開催 関西圏に記念館支援団体「秋艸会」の設立	
	未策定理由

経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
有	就任時期 年度～ 依頼先職種〔 〕	有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種〔 税理事務所 〕
無		無	

事務処理改善の取組み	
有	取組内容 24年度～ 〔 年間日程表を整備し、各種事業・イベントに対応した広報・会場・ホテル・交通チケットの事前確保・予約の段取りを忘れずに進めることを目指している。 〕
無	

人材育成の取組み	
有	取組内容 平成17年度～ 〔 全国文学館協議会、北信越あるいは県博物館協会などの研修会に派遣。また冬季には、テーマ別に研修出張を実施している。 〕
無	

情報公開に関する規定の整備状況			
有	策定期間 平成12年度～ 規定名称 〔 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 〕	団体ホームページ掲載	定款等 21年度～
			事業内容 21年度～
			役員名簿 21年度～
			役員報酬 年度～
			事業報告 21年度～
			正味財産増減計算書 21年度～
			貸借対照表 21年度～
			事業計画書 21年度～
			予算概要 21年度～
無	未整備理由 〔 役員は無報酬 〕		

6. 経営改善状況（個別の取組み）

（1）平成23年度評価調書【今後の取組み】の改善状況

今後の取組み					
「伝統の書，前衛の書，破格の書」をテーマにシンポジウムを開催（平成24年度実施へ向けた取組み）					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容		伝統の書は京都・冷泉家所蔵の藤原定家はじめ巻菱湖などの書、前衛の書は井上有一らの書、破格の書では良寛や會津八一らが挙げられるが、シンポジウムの前提として展覧会の開催を検討している。			
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	展覧会開催は資金面で壁があり、その打開策として大学・研究機関と連携しながら文部科学省の科学研究費獲得を目指している。第1次は失敗で、現在、第2次を検討中。			
	実施事項	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	工程	申請不合格	申請態勢の整備		

今後の取組み					
會津八一の大衆的浸透のため、八一を主人公にした物語の漫画出版					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容		作家の選定協議			
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	作家の確定と内容の協議を進めたい。			
	実施事項	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	工程	作家との折衝			

（2）平成23年度評価調書【総合評価】における「今後の取組みに対する評価，改善指示事項の改善状況

今後の取組み					
後継者の育成・増員を進める必要がある。					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容		上部団体研修、館独自の研修、業務の自立性を進めている。			
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	学芸員は企画力の一層の向上、事務員は窓口と会計だけでなく、各種イベントに関連する諸予約（会場確保、ホテル、交通チケット）を手配する計画性を日常的に訓練する。			
	実施事項	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	工程	年間行事一覧とそれに伴う諸予約一覧づくり			

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	財団独自の収入は年間1,400万円程度。内訳は基本財産の利子、企業からの寄付、グッズ類の販売などで収入は安定している。
団体の自立性	23年度は財団総収入のうち市からの指定管理料3,200万円前後。市に納入している入館料収入は260万円なので、市への財政依存額は3,000万円弱。財団独自の収入は1,400万円強。いわゆる美術館ではなく、文学系博物館としては財政的自立度はまずまずではないか。展示、イベント、その他の活動内容の自立度は95%か。ただし会場確保と市報掲載で担当課に依存することが多い。
経営の効率性・適正性	当財団は公益法人となり、公益目的事業会計分野ではマイナスもしくはゼロとしなければならない。利益を挙げるのは収益事業であるが、それほど運営費全体を賄うほどグッズ類が売れるわけではない。しかも収益事業の利益の5割は公益目的に費消することが原則。こうした公益法人会計の原則と、公益化移行を推進してきた新潟市の求める経営効率性とは、どのような整合性と持つのか、大きな疑問を持っている。
その他	
総括的な所見	
23年度は7月に奈良・中宮寺の姉妹歌碑を西海岸公園に建立除幕した。当館の長年の奈良との交流に加え、22年度の仏像展や八一歌碑建立運動は24年2月に新潟市と奈良県の歴史文化交流協定締結へと結実した。この流れをさらに実効性あるように深化したい。23年度の特別展「會津八一と北大路魯山人」が予想を上回る入館者を確保したが、企画展「戦争と八一」が予想外の不振で、結局、入館者目標7,900人に届かなかった。講演会の数は22年度の仏像展で驚異的な回数を達成したが、23年度は館長の体力など勘案し回数を減らした。24年度も京都相国寺承天閣美術館と交換展を開催する大イベントを実施するため抑制気味にしてある。他県の文学系博物館と比較して企画・講演会数・聴講者数いずれも身の丈以上のことを実行している。単行本「會津八一 悠久の五十首改訂版」を刊行、グッズ類は八一歌入り茶碗を中宮寺と共同制作販売、歌碑建立費用捻出のため拓本115枚を販売し、事業ごとの採算を重視している。	

【所管課による評価】

現状に対する評価	館内の展示のほか、講演会やアウトリーチ活動など、會津八一の業績を顕彰するという館の設置目的に沿った事業を積極的に行っている。また入館者数についても、北大路魯山人展の入場者が約4千人となるなど、昨年度の入館者数を大きく上回り、設置目的に沿った事業が展開されている。
課題及び改善すべき事柄	館の入館者数、使用料収入ともに昨年より増加しているが、引き続きより一層の入館者数、使用料収入の増加に向け取り組んでいただきたい。また、會津八一の業績を顕彰する全国に向けた事業もより一層の展開を図っていただきたい。
今後の指導方針	県内外からの幅広い誘客に繋がる事業展開を期待する。 経年劣化している施設の管理は、管理状況を把握しながら協議して改善に努めるものとする。

【今後の取組み】

	今年、京都相国寺の承天閣美術館との交換展が行われる。館、そして市歴史博物館（みなとぴあ）での新潟展開催（9月29日～11月25日）、さらには承天閣美術館での會津八一展を行う京都展開催（10月6日～12月2日）を行う。（市、新潟日報社、BSNによる実行委員会形式）
	會津八一の業績を顕彰し、紹介する事業（八一祭、館長講座など）の開催について、内容を精査・検討しながら引き続き行う。
	會津八一の大衆的浸透のため、八一を主人公にした物語を漫画で出版したい。

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
総括的な所見			
<p>財団の運営に関しては、最低限の人員でありながら定款に沿って、特別展や普及活動などを行っており、自主財源を確保するため販売事業についても積極的に実施され評価できる。</p> <p>平成25～29年までの中期運営計画を、事務局・学芸員が意見交換しながら策定中であり評価できる。</p> <p>前年度課題とされていた後継者の育成・増員についても、各種研修や年4回の企画を学芸員が実施することで体制強化を図っており評価できる。</p>			
今後の取組みに対する評価，改善指示事項			
<p>平成24年度は京都相国寺の承天閣美術館との交換展が実施され、県外での事業展開も実施されていることは評価できる。</p> <p>引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。</p> <p>また、中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。</p>			

【総合評価を受けての団体としての決意】

<p>平成24年12月 理事長 高橋 道映</p> <p>24年度までに奈良、名古屋、京都など関西圏での會津八一展開催は実現したので、次はこれらをバネに奈良県における會津八一顕彰会の創設を目指し、新潟市が結んだ歴史文化交流協定の内実化を図りたい。そのため奈良県内で會津八一講座の定期的開催、歌碑のある古寺幹部との定期交流を25年度中にも実現したい。その前提として新潟で八一普及を深化させなければならない。まず「学規四則」の朗唱運動を小学校から始めたい。以上を踏まえて中長期計画を策定するつもりである。学芸員の研修は積極的に進め、他方、財源確保のためグッズ類の販路拡大を目指す。</p>
--